

福岡県 伊良原ダム建設事業



上流より望む(完成イメージ)

福岡県が建設を進めている伊良原ダム建設工事は、福岡県営ダムでは初期の1961年12月から準備調査を開始し、50年余の歳月を経て2014年8月に安全祈願祭を行った。転流工、基礎掘削工を経て15年7月31日に堤体工のコンクリート打設を開始し、11月29日には待望の定礎式を挙げる。16年内の打設完了、17年度の完成を目指す。規模は現在建設中の五ヶ山ダムに次ぐものとなり、施工を担当する大成建設・フジタ・岡本土木JVは、ダムICT総合管理システム「4D・D・I・S」を運用するなど、最新の技術を導入して品質、安全性の確保に努めている。

座標と時間で施工管理一元化



福岡県伊良原ダム建設事務所長

野上 嘉久

洪水時には、510立方メートルの流量を約76%カットし、120立方メートルとす。水は、田川地区水道企業(田川市、福岡市、川崎町、糸田町で構成)、京東地区水道企業(行橋市、豊前市、苅田町、みやこ町、吉)

伊良原ダムは、1961年12月から準備調査を開始し、90年4月に建設事業に着手し、95年1月には地元5団体と基本協定書を調印し、用地付け替えている。工事が錯綜し、地元の方々に迷惑をおかすのを防ぐため、環境に配慮、地域振興にも期待

伊良原ダムでは初期に計画的に、環境に配慮、地域振興にも期待

伊良原ダムでは初期に計画的に、環境に配慮、地域振興にも期待

29日、待望の定礎 品質、安全性を確保



伊良原ダムの完成イメージ



骨材プラント



堤体コンクリート打設面

ICT総合管理システムを運用

「一貫した生産システムを採用することで、若い技術者にとって良いフィールドになるため、現在は30歳以下が主力として働き、女性技術者も1人働いている。渡邊所長は、「工事を通して人材の育成、技術の伝承に役立てたい」と目を輝かせる。

コンクリート打設と基礎処理は昼夜施工を行う。現在は、周囲の付帯道路工事も同時に施工しているため、通勤時間帯となる午前7時から午前8時30分までは大型車両の搬入を制限している。ダムの施工管理に当たっては、大成建設が開発したダムICT総合管理システム「4D・D・I・S」を運用している。従来の収集データに加え、材料特性・製造・打ち込みの詳細データなどを含め、座標と時間で一元管理する。「コンクリートのトレーサビリティを確実に行うことができて、品質、安全性を高めることができる」と力を込める。

環境対策では、骨材製造設備周囲への防音壁や騒音・振動計の設置、シート養生や沈砂池による濁水処理対策などを実施している。また、ダム周辺には希少な動植物が100種以上生息しており、「水生生物の移設やヒオトシブツの設置に加え、4カ月に一度のモニタリング調査や3カ月に一度は専門家による環境教育を行う」など、作業所全員で環境保全に努めている。

伊良原ダム建設工事 大成・フジタ・岡本土木特定建設工事共同企業体

大成建設株式会社
TAISEI
For a Lively World

代表取締役社長 村田 誉之

〒163-0606 東京都新宿区西新宿一丁目25番1号 新宿センタービル 電話(03)3348-1111

株式会社フジタ
FUJITA

代表取締役社長 奥村 洋治

〒151-8570 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2 電話(03)3402-1911

岡本土木株式会社
OKAMOTO

代表取締役社長 片岡 敏彦

〒802-0073 北九州市小倉北区貴船町9-1-3 電話(093)921-1858